

みんなが利用したいと思う空間

～図書館の課題って？～

C1240598 木戸夏翠

テーマ：これまで以上に利用しやすくなるような図書館を提案する。

今回、このテーマを受けて私は図書館で学習を行った。私は、学習を行った際に2つの課題を見つけた。1つ目は、「暑い」というところだ。基本的に大学内は涼しい印象で、今の気温だと一日中長袖でいるのも苦ではない。しかし、図書館に行った途端に汗が出てきて暑くて我慢できなくなる。2つ目は、「飲食ができない」というところだ。学習をしている間、のどが渴いてしまったり、小腹がすいてしまったりすることは少なくないだろう。その時に、その場で食べられないのは面倒だ。この課題は、学習する人自身によって変わってくるものだと思う、友人20人にアンケートを行った。アンケートの内容は、1.学習するときは飲食をしているか 2. 図書館では飲食したいと思うかだ。1の結果は20人中18人が飲食している。残りの2人はしていないとなった。また2に関しては、20人中11人がしたい。1人がしなくてもよい。8人が図書館で学習しないという結果になった。この結果を受け、学習中は飲食をする人が多く、図書館でも飲食したいと思っている人がいるということが分かった。

このような実体験やアンケートから、図書館にはこんなニーズがあると考えられる。1つ目の「暑い」という課題には、周りの環境に左右されず集中して学習したいというニーズがあると考えられる。やはり、学習には何にも邪魔されず集中してできることが求められているのだろう。2つ目の「飲食ができない」というのには、その場から移動するのが面倒くさい、移動する時間をもったいないなどの思いがあると考え、その場ですべてを完結させたいというニーズがあると思う。また、のどが渴くことや空腹になることも学習に集中できない要因になっていると考え、1つ目の課題にも共通してくるものだった。

今回のコンセプトは、1. 集中できる環境を作る 2. 飲食してもよい空間を作るである。1では、まず部屋の温度を誰でも自由に調節できるようにする。また、授業で行った先輩方へのインタビューでWIFI環境が良くないという意見もあがった。この意見は、今回のコンセプト1にも対応していると考えられるので、WIFI環境の整備も行う。2のコンセプトでは、飲食できる空間を新たに設置したいと考える。そもそも図書館で飲食してはいけない理由として、図書館内の本を汚さないようにしたいという考えがある。だから、本持ち込み禁止の新たな空間を作ることによって、本を汚したくない図書館側も、飲食しながら

学習したい人たち側も納得できるようになると考える。その空間には、ペットボトルの自動販売機はもちろんコンビニエンスストアなど自動販売機を置きその場で買って飲食できるようにする。また、電子レンジやウォーターサーバー、ポットなど食事に必要なものを置き、どんな食べ物でもその空間で食べられるようにしたいと考える。

このようなことを実施することによって、図書館を利用したいと思う人が増え、集中して長時間学習できるようになると思う。もともと静かで利用しやすい図書館の雰囲気を生かしつつ、学習したいと思っている人のニーズを考えて作り上げた唯一無二の空間が出来上がると考える。